

令和3年度 学校評価（自己評価）

0. はじめに

本年度は、当園の新型コロナウイルス感染症対策についての検証・評価を、次の二つの観点から行いたい。

- ① 日常、どのような具体的な対策を取ったかということを検証し、そのことに対する評価をなす。
- ② 国・府から、多くの要請が学校・会社などの組織や国民に対してなされている中、それらを鵜呑みにせず、園が主体性をもって、様々な医学的知見を調べ学びながら、事実に基づいての判断、医学的知見に基づく判断を出来たかどうか。そして保護者に対して医学的知見をどのように発信したか。について検証・評価をしたい。

そしてこれらの姿勢は、園児の健康管理と日常の教育のバランスをどのようにとっていくか、つまりは、生活の質や潤いを大切にしていく方向につながるもので極めて大切であると考えている。

●以下、目標設定 (P) 実行 (D) 評価 (C) A(改善) の各要素について、学校評価を行う。

I. 目標設定 (P) ……今年度の評価の項目を「新型コロナウイルス感染症に対して、①幼稚園としてどのような具体的な対策をとったか。また ②園が主体性をもって、様々な医学的知見を調べ学びながら、事実に基づいての判断、医学的知見に基づく判断を出来たかどうか。そして保護者に対してどのように発信したか」に定めた理由

日常の園生活において、園児の健康管理が最優先されるのは、当然と考える。それゆえ現在の状況下において、幼稚園が取った対策を検証することはとても重要と考えた。

一方子供達が、生活の質や潤いを大切にしながら園生活を送ることが、それにもまして重要と認識している。そのためには園の主体的な学びと保護者への発信が必要と考えたので、本年度の学校評価の目標を、上記標題の通りに設定した。

II. 実行 (D)

まずは、全ての先生からの発言を基に、具体的な対策を確認する。

●具体的な対策

★保護者とのきめ細かい連絡と 協力体制の確立

- ・毎朝家庭で検温し用紙にて提出
- ・当たり前のことですが、体調が悪ければ登園せずに家で療養させる。
- ・体調不良や発熱などがあれば、本人に限らず、家族の様子も早く知らせてもらう。

★登園時は手や靴裏などの消毒 食事の前後にも行う

★必要に応じて、うがい 流水もしくはハンドソープでの手洗い の励行

★咳が出た時のエチケットについて、十分に話をし、練習もしていく。

★徹底した消毒 机、椅子、階段の手すり、玄関の取っ手、トイレのドアや便器のボタン、バスに座った時の前の取っ手、遊具、その他

★徹底した換気 教室、廊下、遊戯室、バスなど、定期的に換気という以上に、常に窓を開けた状態 すべての教室やホールにおける空気清浄機の使用

★教育効果をそれほど低下させない配慮の中での三密の回避 マスクの使用（園児は保護者の判断による） 机の配置 食事時の指導 など

★常に市・保健所と連絡を密にし、休園措置・保護者への広報など、すべて市・保健所の指導・指

示による。非常事態においては 落ち着いた適切な対応をこころがける。

★その他

●園独自の学び

★新型コロナ感染症に関する医学的な学び

- ・ウイルスに対しては 免疫の視点なくして論じることは出来ない
↑ これは大原則 ということの学び
- ・色々な多くのお医者（特にウイルスの専門家）の意見を探し求め、一方的な報道からの情報だけではなく、多様な医学的知見の情報収集に勉めてきた。

ワクチン (mRNA)	マスク	三密	PCR 検査 (曝露, 陽性, 感染, 発病, サイクル数 Ct 値)			
自然免疫	交叉免疫	獲得免疫	免疫と抗体	IgM	IgG	集団免疫
ADE (抗体依存性感染増強)	自己免疫疾患	スパイク	ACE2 受容体	RNA ウイルス		
ウイルス変異	血栓症	B 細胞	T 細胞	PEG(ポリエチレングリコール)	サイトカイン	
ウイルス干渉	超過死亡	GISAID	これ以外にも多数			

- ・上久保康彦先生(京都大学) ・奥村康先生(順天堂大学) ・井上正康先生(元大阪市立大学)
- ・荒瀬尚先生(大阪大学) ・宮沢孝幸先生(京都大学) ・高橋淳先生(吉備国際大学)
- ・高橋泰先生(国際医療福祉大学) ・村上康文先生(東京理科大学) ・長尾和宏先生(長尾クリニック)
- ・藤沢明徳先生(循環器内科・北海道有志医師の会代表) ・金城信雄先生(かねしろクリニック) など
- 他多数の医師の方々 & 乳幼児の脳と心の発達について・明和政子先生(京都大学) など

●色々な学びから 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) について 明らかになってきた医学的知見

- ・新型コロナが ACE2 受容体に結合して感染することは、周知の事実となっている。
- ・そして新型コロナは血栓症との主張に賛同する医師はかなり多く、ワクチン接種後の死亡者の様態が多く説明できる。(厚生労働省は、ワクチン接種と その後の死亡 との因果関係は不明としているが…)
- ・COVID-19 の致死率は、SARS や MERS と比べて格段に低いため、ワクチン接種には慎重になっていい。
スパイクタンパク質そのものが様々な症状を引き起こしていることは多くの論文に記されているが、現状認可され、世界で使われているワクチンは 全てウイルスの (毒性のある) スパイクタンパクの全長を使ったワクチンである。
- ・マスクは、呼吸器症状のある人が病原体を含む飛沫を拡げないために 着用は必須であるが、無症状者はマスクをしない方がよいと思うに足る理由が少なからずある。特に乳幼児や脳の発達が完成していない児に常時マスクをつけさせることは、大きな観点から考えれば有害である。

●過去のウイルスによる疾患の歴史から 零リスクを求めることは不可能と判断

※過去のウイルスによる疾患の学びから、100%の安全 (零リスク) を追い求めることは不可能であり、失っていく代償はあまりにも大きすぎ、物事は一面だけを見ているとバランスが崩れていく。
コロナに対する危険度と、**自粛・中止することによる失っていく代償**を天秤にかけながら判断していかなければならないとの結論に至った。

●学んだ医学的知見を保護者に発信し 最終的には 保護者が主体的に判断できる環境づくり

※園児の健康管理と日常の教育における潤いのある生活のバランスをどのようにとっていくか、そしてその為には、国や府からの通達等や、感情や情緒に流されず、しっかりとした上記の医学的知見に基づいて、園としての方針を、保護者に発信してきた。

つまり集会において、園が得た医学的知見を速やかに話すことによって、また印刷物で伝えることなどによって、保護者が周りからの同調圧力に負けずに、主体的に判断できる環境を作っていくことがとても大切であると考え、実行してきた。……後述の保護者の感想参考

繰り返すが、園児の健康を守り、潤いのある日常を確保するために、国や府の通達や報道を鵜呑みにすることなく、様々なお医者さんの意見に耳を傾け参考にし、**事実に基づいての判断、医学的知見に基づく判断を、全教職員がなすこと**の出来る能力をもつと共に、**保護者にも 同調圧力に負けずに、各自が主体的に考えること**の出来る手助け、**環境づくり**を実践してきた。

●上記の学びから、幼稚園での感染対策を徹底することで、通常の教育活動 並びに 行事等 を若干の人数制限をしながら、ほぼ通常通り実施することが可能であると判断

ウイルスの特性と上記の学びから、100%の安全（零リスク）を追い求めることは不可能であり、失っていく代償はあまりにも大きすぎ、**物事は一面だけを見ているとバランスが崩れていく。**

コロナに対する危険度と、**自粛・中止することによる失っていく代償**を天秤にかけてながら判断していかねばならないとの結論に至り、ほぼ通常通りの行事をも含めた教育活動を行なってきた。

ただ行事においては、授業参観は、従来全学年とも同一日にしていたのを二日に分散し、運動会、文化発表会、授業参観などは、参観の保護者の人数制限を取り入れた。

また行事などへの参加に躊躇する家庭には、登園について、周りの目を気にせず自由に各自で判断してもらっている。

さらに園の考えを、保護者に常に発信しているのは、上述の通りである。

III. 評価 (C)

●色々な要因があろうけれども、令和3年度の2学期までは、園児や先生に、幼稚園を休園させるまでの感染者が出ていなかったというのは、素直に評価できることだと考える。

●ただ、令和4年3学期においては、感染力の強いオミクロン株の影響で、臨時休園の措置をとらざるを得なくなったのは、断腸の思いであった。

どのようにすれば防げたかを検証するに、職場にて感染した家族からの感染、小学校などで感染した兄・姉からの感染の多さを思う時、今に至るも、なかなか解決策を見出せない現実がある。

●もう一方で、ウイルスが弱毒化し、濃厚接触者と指定されたり もしくは検査において感染（正しくは陽性）と言われても、症状の出ていない児まで長期にわたって隔離静養させることが医学的・科学的に意味があるのかについては、大きな疑問を持つところである。

検査の有り様 2類5類の問題 とくに幼児におけるマスクの使用 現在の治験を経ずに実施されているワクチン接種の危険性 などなど、一園では対応できない問題が大きいのしかかってきた1年間であった。

●次に、目標設定 (P) で挙げた2点について

①日常、どのような具体的な対策を取ったかということに関しては、II. 実行 (D) の中の●具体的な対策の中で述べたように、全ての先生からの発言を基に検証した結果、出来る限りの事はすべて充分になしてきたと、自己評価する次第である。

②園が主体性をもって、様々な医学的知見を調べ学びながら、事実に基づいての また医学的知見に基づく判断・行動が出来たかどうか また保護者への発信ができたかどうか についても、II. 実行 (D) の中の●園独自の学び 並びに ●色々な学びから 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) について 明らかになってきた医学的知見 で触れたように、徹底した対策を取りながら、様々な医学的知見を学びながら、当園のほぼ例年通りの教育活動を実施できたことは、それらの対策や多くの学びは正しかったという自己評価に至った。

加えるなら、学んだ医学的知見を保護者へ発信することにより、保護者から、かなりの不安感を取り除き、日常の教育活動や色々な行事を実施できたことにつながったと、高く自己評価するところである。

IV. 改善 (A)

●実行 (D) で述べたように、単一の思考に陥ることなく、医学的な知識を学ぶことは、とても重要であり、今後も続けていきたい。ウイルスとは変異を伴うものであるという特性から、常に新しい知識を吸収していく必要がある。これらが、事態の改善に直結すると考えている。

●医学的知見に裏付けられたエビデンス・根拠に依る時、防止策を徹底しながら、今後も、ほぼ従来の教育活動を実施することは、可能と考えた。

今後も多くの医学的知見に触れながら、保護者への発信を含め、全ての項目に対して、より一層の改善を目指していきたい。

福沢諭吉先生の「学問のすすめ」にあるように、情報を正しく取捨選択する能力を一人ひとりが身につけ、人々が自分で考え、自分の判断で行動することが重要であり、それらが物事の改善につながっていくと確信している。

なお、上記の自己評価の傍証として、学校関係者評価の会に対して、保護者からの感想を数点提出したく考えている。

令和3年度 学校評価 (学校関係者評価)

I. 最初に

今回、学校関係者委員会に提出された令和3年度の学校評価 (自己評価) は、「新型コロナウイルス感染症に対して、①幼稚園として、日常、具体的にどのような対策をとられたでしょうか ②幼稚園として、主体性をもってどれだけの医学的知見を学ばれたでしょうか また保護者に対する発信は如何だったでしょうか」についてを テーマとされていました。

学校関係者委員会としての下記の評価に至りましたので、ここに学校関係者評価を提出致します。

II. 先ずは、自己評価の検証

(1)テーマ (P 目標設定)

子どもの健康を考えると、昨年に引き続き今回のテーマほど緊急性のあったものはないと考え、早急に再び取り上げられたことは非常に適切であると考え、心から賛成いたします。

(2)具体的にどのような事をされているか (D 実行)

日本中の人々が、コロナが怖い怖いという感情に浸されています。子供の健やかな育ちと潤いのある園生活を願う時、感情に流されず、事実と医学的知見に基準を置いて判断されたという幼稚園の先生方の行動・実行は、とつても必要なことと感動したほどでした。

また保護者への多くの発信、また個々の保護者の決定を尊重して頂くという姿勢には、共感を覚えます。

(3)実際の私達保護者の想い (C 評価)

物事を多角的にみつめ、事実と医学的知見に基づいた幼稚園の判断・行動を高く評価致します。そういう姿勢が、令和3年度に起きましても、ほぼ通常通りの日常の教育活動さらには行事を実施できたことにつながっていると確信しております。

一方、園の学ばれた医学的な情報や、それに対する判断・行動を素早く的確に保護者に伝えて頂いたこと、感謝しかありません。私たちの不安を取り除いて頂きました。

色々な教育活動や行事を取りやめる学校(幼稚園)が多い中、ほとんど通常通りの教育活動・行事をして頂くには、大きな決断と覚悟が必要であったかと推察いたします。

私達学校関係者も、安松幼稚園の自己評価を適正とお認めするとともに、その傍証として、園から提示された保護者の方からの多くの感想のうち、9点をここに紹介したく存じます。(掲載の許可は得ていることを申し添えます)

●コロナ禍における幼稚園運営は大変なものであると推察します。広がりを見せるウイルスの脅威だけではなく、氾濫する情報、その情報に錯綜する保護者、何が正しいのかが分からない状況。そのような中、国の方針に盲目的に従うのではなく、幼稚園として明確な方針を発信し続けて頂いたことには感謝しかありません。またその決断を行う先生の胆力の強さには感服致します。

『天のまさに大任をこの人に降さんとするや、必ずまずその心志を苦しめ、その筋骨を勞し、その皮膚を餓えしめ、その身を空乏にし、行いにはその為すところを仏乱す(孟子)』

コロナは大変な試練を与えてくれますが、同時にチャンスも与えてくれているように思います。これはまさに、人類に大任を降さんための天が与えてくれたものとして受け止めて歩いていくべきなのでしょう。安松幼稚園の先生方なら、この大任をしっかりと全うできるものと信じています。

●先生 卒園式冒頭の挨拶の中での「コロナ禍の中 何度もパンチを浴び…」という言葉に、今思い出しても涙が溢れます。

このコロナ禍の中、日常の教育活動や行事をほとんど中止や省略することなく実施して頂くための熟慮と色々な工夫、そして大きな覚悟。特に3学期は、相当な強いパンチを何度も矢面に立って受けて下さったことと、お察しします。それでもできる限りの事はやる、やり尽そうとして下さった先生の柔軟な適応力、ぶれない人間力の厚みと、その愛の深さに圧倒されました。先生、オミクロンにも負けていませんでしたよ！！

参観後の先生のホールでのお話で、親育てをして頂き、豊かな人生を歩むことの尊さを教えて頂きました。もっと聞いていたかったです。

いつも温かく深い愛情で見守り応援して頂きありがとうございました。

感謝と感動の幼稚園 安松幼稚園です。

●昨年からはコロナの影響が大きく様々な制限の中、できる限り通常通り子供達と接し、園活動を続けて頂いたことは、宝だと思っています。

起こってしまった未曾有の事態は、決してマイナスばかりではなかったのではと思う部分があります。(大変なことは承知です…)

こういったピンチの時 大変な時こそ、安松幼稚園の対応力の早さや、先生の想像もできない様な学びからの指揮力等、やっぱり、この幼稚園は圧倒的に他とは違うなど、改めて感じる近年でありました。

たくさんの情報が行き交う中、何を信じ、どうやって家族を守っていったらいいのだろうと迷う中、先生のお手紙やお話を聞き、自分なりに選択し、幼稚園を信じ、マスクで笑顔を失う時間を最小限に減らす事が出来たかけがえのない時間。先生の徹底したこまめな消毒等、安松幼稚園なら出来る事をすべてしてくれているに決まっている！ と心から信頼し、毎日送り出す事が出来ました。

本当に、全てにおいて全力で家庭の宝をお守り下さり感謝致します。

●娘の嬉しい変化も、先生方の変わらないブレない姿勢のお陰だと感じています。「コロナ禍だから仕方ない」とは決して妥協されなかったこの二年。環境を整備し、何とかこれまで通りの日常の教育そして行事をと、いつもベストを尽くして下さいました。

先生方の底力を見た気がします。だから春留日も集中していろいろな事にチャレンジでき、行事毎の目覚ましい成長もありがたく思います。やり切った後の笑顔は、本当に最高です！

●今年はコロナ禍でイレギュラーな対応を迫られる中、いつもその時の最善の対応をして下さり感謝しております。

例年通りに行事を経験させてあげたいという熱い気持ちが伝わり、安松幼稚園を選んで良かったと思いました。来年度も安心して娘を預けられると思っていますので、親子共々よろしく願い致します。

●コロナに翻弄され、なかなか落ち着かない一年でしたが、先生方のご苦勞、ご尽力のおかげでこれ以上ない一年を過ごすことができたと思っています。

3 学期参観後の先生のマイクでのお話からも、今日に至るまでのご苦勞がひしひしと伝わってきました。先生方に心から感謝申し上げます。

本当にありがとうございます。

●今年度も、コロナがなかなか収束しない中でも諸行事を開催して頂き、本当に感謝しています。

●コロナ禍の中、少しの制限はありながらもいろいろな工夫をし、行事を行って頂き、子供の成長を親に見せて頂き、感謝しかありません。

●まだまだコロナで大変な世の中でしたが、『今』を大切に子供たちと常に向き合い、運動会や文化発表会などいろいろな行事に工夫を重ね、たくさんの困難を乗り越えて行って下さったこと 感謝しかありません。

(4) A改善

物事は多角的に考え、色々な事象とのバランスをとりながら考えなくてはいけないという発想は、私たち保護者にとりまして、とても参考になる問いかけでありました。そういう発信をしてくださることが、柔軟に色々な改善をしていくという姿勢につながると考え、今後ともぜひ願したく存じます。

一方的な情報に流されずに、日々、学んでいく姿勢、そして学ばれたことを保護者に発信して頂くことが、今回の新型コロナウイルス感染症の対策としても、日々に改善されていく源になると感じ、これからの更なる改善を期待申し上げます。

Ⅲ. 最後に

色々と自己評価を検証してまいりました。

ここに学校関係者評価として、自己評価が適切であると認めます。